

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶB／平安の文学B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	前期に引き続き、能因本枕草子を読む 清少納言の枕草子を、世間で普通に読まれている枕草子とは内容の異なる能因本のテキストで読みながら、平安貴族社会の文化について学ぶ。あわせて枕草子という作品の傑出した文芸性についても講義する。
授業計画 Syllabus	1) 受講に際しての注意事項・枕草子と能因本枕草子について(1) 2) 枕草子と能因本枕草子について(2)・321段～323段 3) 193・195・200・202段 4) 225段 5) 22段(1) 6) 22段(2)・21段 7) 28段 8) これまでのまとめと中間テスト 9) 91段(1) 10) 91段(2) 11) 91段(3) 12) 106・134段 13) 182段(1) 14) 182段(2) 15) これまでのまとめと期末テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講読と講義
評価方法 Evaluation	期間中2回のテストの成績によって評価する。試験時には教科書と配布したプリントのみ持ち込みを許可する。ノートの持ち込みは不可。
履修上の注意 Requirements and policy	出席はとらないが、通行の枕草子とは異なるテキストを用いての講義なので、欠席がかさむと単位修得は難しいものと了解されたい。 授業で配布したプリントの追加配給はいっさいしないので、欠席した場合は各自でしかるべく入手すること。 初めに受講に際しての注意事項を確認する。注意事項を守れない者については、受講を認めない。
教科書 Textbook(s)	松尾聡・永井和子編『枕草子〔能因本〕』（笠間書院・笠間文庫・2500円）ISBN978-4-305-70422-1
参考書 Reference(s)	教室で随時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶD／近世の文学B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>近世演劇研究12-2 江戸時代を代表する歌舞伎と人形浄瑠璃の歴史を考える。特に二つの芸能の交流に着目し、三百年以上の間、社会の最先端の文化の一つとして活動を継続してきた軌跡を考察する。浄瑠璃や歌舞伎という芸能が17世紀初め頃に誕生してから、さまざまな紆余曲折を経ながら江戸時代という時代の中で大衆の中に定着してゆく。本講義は、その過程について特に成立期から元禄・享保期までを中心に、主に人形浄瑠璃の盛衰を柱に検討を加える連続講義の一環である。本年度は、昨年度の宝永初期の考察に引き続き、宝永期に起こる新たな演劇界の動きについて考察する。後期は時代物に続き、世話物を中心に、芸能が新たな展開を見せる時代の変化を作品を通して考察する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 宝永期の浄瑠璃界 第2回 『雪女五枚羽子板』の概要1 第3回 『雪女五枚羽子板』の概要2 第4回 『雪女五枚羽子板』の概要3 第5回 『雪女五枚羽子板』の概要4 第6回 世話物の世界 第7回 世話物の展開1 『心中万年草』1 第8回 世話物の展開2 『心中万年草』2 第9回 世話物の展開3 『心中万年草』3 第10回 古典と世話浄瑠璃 第11回 世話物の展開4 『淀鯉出世滝徳』1 第12回 世話物の展開5 『淀鯉出世滝徳』2 第13回 世話物の展開6 『淀鯉出世滝徳』3 第14回 時代物と世話物 第15回 まとめと筆記試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席30% 期末試験70%
履修上の注意 Requirements and policy	日本の古典芸能に関する予備知識は特に必要ないが、芸能や演劇（現代のものも含む）に対する関心や好奇心を持っていること。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋古典入門IB（ギリシア語）						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ただ単に「ギリシア語を学ぶ」といえば、それは現在のギリシャで話されている「現代ギリシャ語」ではなくて、古代ギリシア語のことです。ふつうこのギリシア語を学ぶのは西欧文化の源泉となった文学・歴史・哲学の古典、さらには新約聖書などを原語で読んだり研究したりするためです。しかしこの授業では、受講生がギリシア語とはどんな言語かを知り、西洋古典文化や、英語やドイツ語など印欧語系の言語そのものへの興味と理解を促すことを目的として、ごく初歩的な文法を学び、簡単な文章を訳読します。
授業計画 Syllabus	第1回：古典ギリシア語について。ギリシア語のアルファベット、音韻の分類 第2回：発音（二重母音、注意すべき子音、氣息記号） 第3回：発音（音節とアクセント） 第4回：動詞の変化(1)―直説法能動相現在人称変化 第5回：第一変化名詞(1) 第6回：動詞の変化(2)―直説法能動相未来人称変化 第7回：第一変化名詞(2) 第8回：動詞の変化(3)―直説法能動相未完了過去人称変化 第9回：第二変化名詞 第10回：第一第二変化形容詞 第11回：前置詞 第12回：動詞の変化(4)―直説法能動相アオリスト人称変化 第13回：簡単なギリシア語の文章を読む(1) 第14回：簡単なギリシア語の文章を読む(2) 第15回：簡単なギリシア語の文章を読む(3)
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と訳読
評価方法 Evaluation	出席状況・学習態度・毎回の練習課題の達成度をそれぞれ30%・30%・40%の割合で総合した平常点で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	語学の学習は積み重ねであるから、履修者は毎回必ず出席し、宿題等の課題に積極的に取り組まねばならない。教科書は必ず第1回目の授業までに入手し、持参すること。
教科書 Textbook(s)	『ギリシア語入門』田中美知太郎・松平千秋著、岩波全書
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	日本文学入門II						
担当教員	金岡 直子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>戦後文学・現代文学にみる女性の横顔</p> <p>第二次世界大戦以後、日本の戦後文学は多種多様にひろがりました。なかでも「女性」の生き方の可能性を示唆する文学は多く存在します。例えば恋愛ひとつとっても、心のふれあいのみで終わる場合、生きていくために選んだ「愛人」という道、恋愛の果ての中絶、自死……、書き連ねるととても不幸な道が多いように見えますが、文学に描かれた女性たちがそのような境涯をどう生きるのかに興味を持ち、学ぶことが、今後の自分の生き方をみつめるきっかけとなれば幸いです。戦後から現代にかけての女性の諸相をみていきながら、それぞれに生き方のレッスンを感じ取りましょう。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>1：イントロダクション／1945年・戦後の始まり</p> <p>2：太宰治『斜陽』（1947年）</p> <p>3：野間宏『顔の中の赤い月』（1947年）</p> <p>4：安岡章太郎『ガラスの靴』（1951年）</p> <p>5：石原慎太郎『太陽の季節』（1955年）</p> <p>6：田辺聖子『感傷旅行』（1963年）</p> <p>7：古井由吉『杏子』（1970年）</p> <p>8：現代文学案内</p> <p>9：山田詠美『ジェシーの背骨』（1986年）</p> <p>10：村上春樹『ノルウェイの森』（1987年）</p> <p>11：俵万智『サラダ記念日』（1987年）</p> <p>12：吉本ばなな『TUGUMI』（1989年）</p> <p>13：柴門ふみ『東京ラブストーリー』（1991年）</p> <p>14：美嘉『恋空』（2006年）</p> <p>15：まとめとレポート案内</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義方式。						
評価方法 Evaluation	出席状況（45%）、レポート（45%）、平常点（10%）						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>学ぶ姿勢を忘れないこと。</p> <p>前もって作品を読まなくとも、あとで読みたい作品を1つでも見つけ出すこと。</p> <p>詳しくは初回授業時に注意。</p>						
教科書 Textbook(s)	プリント配布。						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読J (ジェイ)						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	18世紀から19世紀にかけての西ヨーロッパの社会の変化が音楽芸術に及ぼした影響について学ぶとともに、ロマン派の音楽の特徴を学ぶ。あわせて「芸術の都」ウィーンで活躍した色々な分野の芸術家について学ぶ。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) 18世紀の西欧社会 2) マリア・テレジアとその時代 3) ジャン・ジャック・ルソーの思想、音楽論 4) ソナタ形式 5) 交響曲の歴史 6) ウィーンの町の歴史、ワルツ 7) ビーダーマイヤーの都、コーヒー文化 8) ベートホーフェンの生涯と音楽 (1) 9) ベートホーフェンの生涯と音楽 (2) 10) ロマン主義とロマン主義絵画 11) シューベルトの音楽 12) メンデルスゾーンの生涯と音楽 13) 幻想交響曲 14) マーラーの音楽 (1) 15) マーラーの音楽 (2)
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講読形式を中心とするが、CDやVTRを用いた音楽鑑賞も行う。
評価方法 Evaluation	平常点50% (小テストおよび小レポートを含む)、期末のレポート50%を原則とする。なお、受講態度の優れている者には、平常点を加点することがある。 * 注記: 「受講態度」というのは、出席点ではなく、予習・復習やテキストの理解の程度などのことです。なお、この科目では、2回以上連続で欠席しますとペナルティーが課せられています。AVセンターで音楽CDを聞いて、レポートを書くというようなことです。この科目の受講ルールは複雑ですので、最初に受講生には詳しく説明しています。
履修上の注意 Requirements and policy	レポート提出の期限を守る。遅れた場合は、大幅に減点することがある。遅刻や欠席を繰り返した場合は単位を与えない。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読L						
担当教員	村上 知彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：まんがと批評-まんがの論じ方</p> <p>授業内容： 絵と言葉によってつづられる文芸の一形式であり、戦後日本の重要な文化でもあるまんがをめぐる多様な主題を論じた批評・研究を概観し、それらをふまえつつ、まんが作品を批評的に読み解く。指定テキストの他、受講者の希望するまんが作品もテキストとして取り上げ、それらの作品についての批評・研究などを参照しながら授業内での発表・討議をおこない、最終的には短い批評的文章を、各自レポートとして書き上げることを目指す。テキストをもとにした講義、および発表形式。何度か、課題等の提出を求める。</p>
授業計画 Syllabus	<p>(1) イントロダクション</p> <p>(2) まんがの論じ方/まんが批評小史</p> <p>(3) まんがと批評/批評とは何か</p> <p>(4) コードとコンテキスト/物語のコード分析</p> <p>(5) 作品講読1/萩尾望都「トーマの心臓」-1</p> <p>(6) 作品講読1-2 作者とタイトル</p> <p>(7) 作品講読1-3 書き出しと主人公</p> <p>(8) 作品講読1-4 物語のコード</p> <p>(9) 作品講読1-5 描写と表現</p> <p>(10) 作品講読2 (課題作品は授業中に決定) -1</p> <p>(11) 作品講読2-2 作者とタイトル</p> <p>(12) 作品講読2-3 書き出しと主人公</p> <p>(13) 作品講読2-4 物語のコード</p> <p>(14) 作品講読2-5 描写と表現</p> <p>(15) まとめ/作品分析のヒント</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義および個人発表
評価方法 Evaluation	期末レポート (50%)、および発表・平常点等 (50%) により総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	出席を重視し、授業への積極的参加を求める。欠席は回数に応じて減点とする。
教科書 Textbook(s)	<p>ISBN 4-09-191013-0</p> <p>書名 トーマの心臓</p> <p>著者名 萩尾望都</p> <p>出版社 小学館文庫</p> <p>・和書</p> <p>ほか、授業中に指示します。</p>
参考書 Reference(s)	<p>ISBN 4-480-08095-3</p> <p>書名 増補 文学テキスト入門</p> <p>著者名 前田愛</p> <p>出版社 ちくま学芸文庫</p> <p>・和書・注文不要</p> <p>ほか、授業中に紹介します。</p>

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IB／文芸特殊講義D／（日本の民俗と民話）						
担当教員	勝村 弘也						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本の代表的な昔話の研究方法について学びながら、日本文化の基底にある生活文化について考察する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本の代表的な昔話 2) 照葉樹林文化（1） 3) 照葉樹林文化（2） 4) カチカチ山 5) 猿蟹合戦、花咲爺さん 6) 浦島太郎 7) 天人女房（1） 8) 天人女房（2） 9) 河童（1） 10) 河童（2） 11) 酒呑童子 12) 客人の訪問、ナマハゲ 13) 大歳の客 14) 照葉樹林文化について再考する 15) まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式。受講者による簡単な報告を求められることがある。
評価方法 Evaluation	平常点40—60%（小レポートなどを含む）、期末のレポート60—40%。提出の義務づけられていないレポートを提出した場合には、平常点の割合を大きくすることがある。 *注記：この科目には、義務化されていないレポートの提出があります（過去においては、講義内容に関連する短編小説を出した者がいます）。これは講義期間中に提出するものです。これを先に出しておいた場合は、期末レポートの評価方法が違ってきます。したがって厳密には数値化不可能です。
履修上の注意 Requirements and policy	小レポートの提出期限を守ること。配布される資料をファイルしておくこと。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIB／文芸特殊講義F／（キリスト教と美術B）						
担当教員	横川 典古						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>キリスト教美術を読み解く 西方キリスト教美術史</p> <p>「はじめに言葉ありき」とは、ヨハネによる福音書の冒頭をかざる有名な文章ですが、ことば（ロゴス）を重要視するキリスト教は、同時にイメージ言語ともいうべき画像表現も重要視して、発展させました。</p> <p>草創期のキリスト教教会においては、画像表現を偶像崇拜につながるものとして禁止していたユダヤ教の影響が強かったため、美術表現を危険視していました。しかしローマ帝国の権力と結びつき、ヨーロッパ世界におけるキリスト教信仰の普及と共に視覚芸術を壮大に発展させ、西洋美術の根幹を形成してきました。</p> <p>この講義では、こうしたキリスト教美術を理解し鑑賞する為に、キリスト教図像学を中心にした西洋美術史を概観していきます。</p> <p>西ローマ帝国の崩壊後、西ヨーロッパはしばらく暗黒時代に入りますが、中世キリスト教社会の中から成長発展していく西方キリスト教美術をとりあげ、ルネサンス美術をへてバロック美術までをあつかいます。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 16. ローマ帝国の崩壊と西ヨーロッパの誕生 17. ケルト・ゲルマンの美術 18. カロリング朝の美術とキリスト教図像学 19. オットー朝の美術 20. ロマネスク美術とキリスト教修道主義 21. ゴシック美術と光の美学 22. ゴシックの大聖堂 23. 国際ゴシック様式と写本挿絵 24. プロト・ルネサンス 25. 初期イタリアルネサンスの美術 26. ローマ教皇庁と盛期ルネサンス 27. 北方ルネサンス 28. 宗教改革とマニエリスムの美術 29. 南欧バロック美術 30. 北方バロック美術
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	小テスト50%、期末テストまたはレポート50% (欠席した場合は減点)
履修上の注意 Requirements and policy	スライドやビデオを使用しながら、多くの美術作品を見ていく授業を行うので、出席を重要視します。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIIB / (メディア社会の諸問題)						
担当教員	木村 勲						
学期	後期 / 2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大事件のときマスコミは加害者追及だけでなく、被害者やその遺族・関係者も取り囲みマイクやカメラをつきつける。興味本位の噂話のショー化もある。そんななかで松本サリン事件のように被害者を犯人視して報道してしまうという理不尽な事態さえ起こっている。そこからプライバシー保護の名のもと、報道規制という法的対応を安易に肯定する論調を生む。言論の自由な民主主義社会を維持するために、どうしていったらいいのかを考える。また文芸作品における史実と異なる聖典化の問題も。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 報道被害 最近の事例から 2 "科学" 捜査が生んだ冤罪・菅谷さん 3 松本サリン事件 4 被害者の夫の犯人視報道の始まり 5 メディアと警察 6 訂正・謝罪はどう行われたか 7 集中豪雨取材①桶川ストーカー殺人事件 8 同②福岡一家4人事件 9 取材源の秘匿「奈良放火少年事件」 10 フリー・ジャーナリスト批判の意味 11 「ウォーターゲート事件」 12 文芸に見るメディア・ブーム①司馬作品の背景 13 同② 文学と史実の間 14 ニュースのショー化 15 私たちは何を知り、知り得るのか
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義。教科書と新聞のコピー（配布）を使う。
評価方法 Evaluation	期末レポート70点、受講態度・問題意識30点。出席は当然。
履修上の注意 Requirements and policy	日常の新聞を読む。
教科書 Textbook(s)	梓澤和幸『報道被害』 岩波新書 ISBN978-4-00-431060-0
参考書 Reference(s)	木村勲『日本海海戦とメディア——秋山真之の神話批判』（第2刷り）講談社選書メディア

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IVB／文芸特殊講義B／（まんが文化論B）						
担当教員	村上 知彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時間	木曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：まんが文化論-まんが雑誌の現在</p> <p>授業内容： 子どもから若者、成人まで幅広い読者を魅了し、現代を代表する大衆文化のひとつに成長したまんがは、いまや、世界に発信される日本文化として、あるいは世界をリードする「コンテンツ産業」として、政財界からも注目を集めるものとなっている。</p> <p>後期の授業では「まんが雑誌」をとりあげ、その歴史的なりたちやメディアとしての特性、読者層の変化やまんが表現の発展などを概説し、現代の出版不況のなかでまんが雑誌が、出版文化とメディア産業のなかにいかなる位置を占め、どのような誌面を作り、どこへ向かおうとしているのか、その現在と未来を考察する。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>(1) イントロダクション</p> <p>(2) まんが雑誌の現在</p> <p>(3) まんが雑誌の歴史 (1) 月刊誌の時代</p> <p>(4) まんが雑誌の歴史 (2) 週刊誌の登場</p> <p>(5) まんが雑誌の歴史 (3) 劇画と青年誌</p> <p>(6) まんが雑誌の歴史 (4) 多様化と専門誌化</p> <p>(7) メディアとしてのまんが雑誌</p> <p>(8) まんが雑誌を読み解く (1) 少年誌</p> <p>(11) まんが雑誌を読み解く (2) 青年誌</p> <p>(9) まんが雑誌を読み解く (3) 少女誌</p> <p>(10) まんが雑誌を読み解く (4) ジャンル誌その他</p> <p>(12) まんが雑誌とまんが表現</p> <p>(13) 世界のまんが雑誌</p> <p>(14) まんが雑誌の未来</p> <p>(15) まとめ</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	期末レポート（60％）、提出物および平常点等（40％）。						
履修上の注意 Requirements and policy	出席を重視する。前期「文芸特殊講義IV A」を併せて受講することが望ましい。						
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布します。						
参考書 Reference(s)	<p>ISBN 978-4-334-03503-7</p> <p>書名 サンデーとマガジン 創刊と死闘の15年</p> <p>著者名 大野茂</p> <p>出版社 光文社新書</p> <p>・和書・発注不要</p> <p>その他、授業中に紹介します。</p>						
備考 Remarks							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読B						
担当教員	宗像 衣子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>文芸の味わい</p> <p>文芸諸ジャンルの交流を味わいながら、文芸が文化の全体において考察されるおもしろさを実感してもらいたい。 文学と芸術にまたがる身近なテーマをもった文章を、思想・歴史・宗教・社会・科学といった文化を浮き彫りにするものとして学び、文芸が幅広く関係し合う様子を確認する。</p> <p>ヨーロッパ、主にフランスの近現代、印象派以降の美術（画家たち、たとえばモネ・ゴッホ・ゴーギャン・ピカソ・マチスなど）と文学（詩人・作家・批評家たち）に関わるテキストを読みながら（そのプロセスで音楽性・音楽家にも触れることになる）（また関係して、日本の作家・作品についても学ぶ）（テキスト形態は論説評論文だけでなく、詩や小説、随筆・手紙等にまたがる）、様々な「物の見方・感じ方」に接して、文芸・文化の多様性に親しんで、着実に読解力と広い視野を手に入れてほしい。</p> <p>もちろん、文字を読むだけでなく、美術・映像を見たり音楽を聞いたり、という総合文芸学科ならではの学び方・楽しみ方で全体的な手ごたえが得られるはず。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>後期授業前に再確認します。</p> <p>以下は、常にヨーロッパの芸術・文化、美術・音楽・文学との関係において学びます。出席者の様子・意向に応じて下記内容が変更される場合があります。 （なおこれは、通年文芸講読1と共通科目であり、本年4月に示されたそのシラバスの実質的内容に運動し応じたものです。）</p> <p>1回 全員で授業出発点の合意・話し合い 2回 文芸講読の価値と目標 3回 東山魁夷 テキスト1 4回 同 テキスト2 5回 同 テキスト3 6回 同 テキスト4 7回 同 テキスト5 8回 全員討議 9回 希望と状況により学外見学 10回 アンソロジー1（西洋・絵と言葉） 11回 同テキスト2 12回 同テキスト3 13回 討議・討論 14回 復習とテスト 15回 反省とまとめ</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義と演習						
評価方法 Evaluation	平常点70%、小テストあるいは小レポート15%、期末テストあるいは期末レポート15%						
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視 （受講者と相談の上、学外見学ができればと考えている。 学外見学を実施する場合は、入場料・交通費は実費負担。）						

教科書 Textbook (s)	授業中に関連資料や参考書を配付・紹介する。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読D						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>女の情念、女の叫び ギリシア古典期の三大悲劇作家のうち、後世最も人気のあったエウリピデスの作品中でも、映画に舞台にと現代人に対してもとりわけ強烈な訴求力をもつエウリピデスの『メーディア』を読んで考察します。自分を捨てて他の女に走った夫に猛烈な復讐を企てるヒロインの理知と情念の悲劇です。 『メーディア』のあと、もう一篇、受講生の意見を聞いて何を読むか決めます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回：イントロダクション、テキスト概説 第2回：『メーディア』プロロゴスとパロドス 第3回：第1エペイソディオン、第Iスタシモン 第4回：第2・3エペイソディオンとスタシモン 第5回：第4・5エペイソディオンとスタシモン 第6回：第6エペイソディオン・スタシモンとエクソドス 第7回：鑑賞と考察、『詩学』における悲劇の要素、ビデオ『王女メーディア』 第8回：次に読む劇の選択、選ばれた劇の概説 第9回：プロロゴス、パロドス、第Iエペイソディオン・スタシモン 第10回：第2・第3エペイソディオンとスタシモン 第11回：第4エペイソディオンからエクソドスまで 第12回：800字梗概、400字梗概の作成 第13回：『メーディア』との比較（筋立て、登場人物、アナグノーリシス、アゴーンなど） 第14回：エウリピデスのデウス・エクス・マーキナー（機械仕掛けの神） 第15回：まとめと展望、期末レポート提出</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講読。						
評価方法 Evaluation	平常点（30%）、学期末試験のレポート（70%）						
履修上の注意 Requirements and policy	講読の授業なので、3分の2以上出席しないと、レポートの提出は認めません。 すなわち単位は取得できません。 教科書は必ず最初の授業までに入手して持参すること。						
教科書 Textbook(s)	『ギリシア悲劇Ⅲ』（ちくま文庫） エウリピデス著、松平千秋他訳 筑摩書房						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読F						
担当教員	柿沼 伸明						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：ロシア近代小説を読む ドストエフスキーの『貧しき人びと』を読んでいきましょう。 この小説は、ドストエフスキーの巨大な作品群のなかでは、もっとも読みやすい小説であるとともに、彼のデビュー作です。物語は、しがたない中年役人のマカール・ジェーヴシキンと、貧乏な家庭で育ち、幸薄い少女ワルワラ（愛称形ワレンカ）の手紙のやりとり（現代のEメールでしょうか）から構成されています。いわば交換日記みたいなものです。手紙を交わしていくうちに、マカールがワルワラのことをだんだんと好きになっていくのですが、最後に彼女は金持ちの男性と結婚してしまい、マカールはひとり取り残されるという悲しい話です。木村浩の訳文も平易です。現代の殺伐（さつぱつ）たる世の中であって、こうした心温まるお話を読むことは、とても大切なことだと思います。</p> <p>日常生活のように淡々と進んでいく。しかし、戯曲の最後には必ず観衆への問いかけが含まれている。 特に『桜の園』はチャーホフの最晩年に書かれ、最も完成度の高い戯曲作品である。「桜の園」は、古き良き時代を懐旧する落魄した老人たちのノスタルジーの象徴だ。時間があれば、『三人姉妹』も読みたい。 会話の妙に目を配りながら、チャーホフの深い含蓄のある文学世界を味わってほしい。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回：授業概要・成績評価の説明。ドストエフスキーの生涯と文学について解説。 第2回：『貧しき人びと』（新潮文庫）pp. 5-25 第3回：pp. 25-45 第4回：pp. 45-65 第5回：pp. 65-85 第6回：pp. 85-105 第7回：pp. 105-125 第8回：pp. 125-145 第9回：pp. 145-165 第10回：pp. 165-185 第11回：pp. 185-205 第12回：pp. 205-225、レポートの書き方の説明 第13回：pp. 225-245 第14回：仮レポートの提出、pp. 245-最後 第15回：添削した仮レポート返却、個別指導</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	語の意味や風俗や社会背景を説明しながら、文学テキストを授業参加者と一緒に熟読していく。受講者がテキストの内容を理解した後、自分なりの解釈を期末レポートにまとめさせ、これに基づいて個別指導を行う。						
評価方法 Evaluation	レポート内容と出席率に基づき、総合的に評価。						
履修上の注意 Requirements and policy	レポートがインターネット等からの写しと判明した場合、単位を与えない。						
教科書 Textbook(s)	ドストエフスキー『貧しき人びと』（新潮文庫）木村浩訳						
参考書 Reference(s)							

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア・広報入門II						
担当教員	村上 知彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1~4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：メディアとコマーシャルリズム</p> <p>授業内容：現代社会におけるメディアとコマーシャルリズムの関係を考える。広告の歴史的なりたちやメディア文化としての特性、広告表現のはたらきなどを概説。また広告にとどまらず、出版、雑誌、映画、テレビ、インターネットなど多様な現代のメディア文化とコマーシャルリズムとの関わり、メディアにおけるコマーシャルリズムが社会に及ぼす影響などを考察する。</p>						
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> (1) はじめに/ジャーナリズムとコマーシャルリズム (2) 広告の定義と類似活動/宣伝・PR・パブリシティ (3) 広告の分類 (4) 広告の機能 (5) 広告小史/広告の誕生 (6) 広告の世紀/パリ万博と百貨店 (7) コピーの魔術/南極探検隊員募集 (8) 商標の登場/エンゼルと福助 (9) 説得と煽動/ナショナリズムを売る (10) 差異化とは何か/スモカ歯磨 (11) 同時代に語りかける/アンクルトリスの誕生 (12) 飽和した物質文明/ハングリー? (13) コマーシャルリズムとメディア文化/雑誌・出版 (14) コマーシャルリズムとメディア文化/映画・テレビ (15) まとめ 						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	期末レポート（70%）に、提出物、平常点等（30%）を加味して総合評価する。						
履修上の注意 Requirements and policy	私語、携帯電話、授業中の入退室など、他の受講生の迷惑になる行為は慎むこと。						
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布します。						
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。						
備考 Remarks							